

学校施設におけるブロック塀等の安全点検等状況調査 学校設置者用メモ

この資料は、本調査における学校設置者用の作業用として、参考で配布する作業シート（Excel データ）に係る記入要領です。必要に応じて、各都道府県等で修正しつつ活用してください。

なお、集計シート・作業シートについては、文部科学省に提出する必要はありません。

1. 調査対象機関

全国の国公私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校

- ※ 休校中の学校や分校も対象とし、1校として計上してください。廃校は対象外です。
- ※ 帰還困難区域等内に設置されている学校は除きます。
- ※ 中高一貫校など、同一の敷地等を複数の学校で利用している場合は、重複のないよう計上してください。

2. 調査対象となるブロック塀等

学校敷地内に設置されている、組積造又は補強コンクリートブロック造の塀（以下「ブロック塀等」という。）

- ※ 組積造：レンガ・石等をモルタルで積み上げた構造

3. 作業シート (Excel データ) の記入要領

学校種別を調査票へ記入する。

最下部に集計シートへ転記するデータが自動的に集計される。表示された結果に誤り等が無いかなにか確認の上、とりまとめ者に提出すること。

● 現状 (①～③) の共通事項

- 平成30年6月19日時点で設置されていたブロック塀等の状況を記入する。
※ 「学校におけるブロック塀等の安全点検等について（通知）（平成30年6月19日 30文科施第112号）」発出時点の状況について回答する。

【都道府県名】

- 都道府県名を記入する。
- ※ 国公立大学法人においては、大学名を記入する。

【市区町村名等】

- 国立学校 → 学校が所在する市区町村名を記入する。
- 公立学校 → 市区町村名・事務組合等名を記入する。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 私立学校 → 学校設置者名を記入する。
①【学校名】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校名を記入する。
②【ブロック塀等の有無】
<ul style="list-style-type: none"> ○ ブロック塀等がある場合 → プルダウンで「有」を選択する。 ○ ブロック塀等がある場合 → プルダウンで「無」を選択する。 <p>※ 「無」を選択した場合③以降については記入不要。（セルが黒くなります）</p>
③【ブロック塀等の全長】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校に設置されているブロック塀等の全長(m)を整数で記入する。 <p>※ 図面で確認できる場合には、図面上で計測した数値を記入することも可とする。</p> <p>※ 1つの学校に複数のブロック塀等が設置されている場合、<u>学校に設置されている全てのブロック塀等の長さの合計</u>を記入する。</p> <p>※ 同一の敷地等を複数の学校で利用している場合、ブロック塀等の位置関係や構内の利用実態に応じて、いずれかの学校に計上する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 第1段階（外観に基づく点検）安全点検（④～⑥）の共通事項 <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年6月19日時点で設置されていたブロック塀等の状況を記入する。 <p>本調査では、平成20年3月10日国土交通省告示第282号に定められている調査項目のうち、外観に基づき行う点検を「<u>安全点検（第1段階）</u>」とする。</p> <p>安全点検（第1段階）は、外観目視等により、以下の事項について問題がないか確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高すぎないか。（組積造は1.2m以下、補強コンクリートブロック造は2.2m以下） ※ 高さは地盤面から計測する。 2) 厚さは十分か。（組積造は壁頂までの距離の1/10以上、補強コンクリートブロック造は10cm（高さ2m超は15cm）以上） 3) 控え壁があるか。（組積造は4m以下ごとに壁の厚さの1.5倍以上突出した控え壁、補強コンクリートブロック造は3.4m以下ごとに塀の高さの1/5以上突出した控え壁を設ける） 4) 基礎があるか。 5) 老朽化し亀裂が生じたり、傾き、ぐらつきなど（以下「亀裂等」という。）が生じたりしていないか。 <p>※ 補強コンクリートブロック造については、構造計算により構造耐力上安全であることが特別に確かめられる場合は、1)～4)の仕様基準によらないことができる。</p> <p>※ 直近の建築基準法第12条の規定に基づく「塀」の点検において、1)～4)の事項に適合していること、5)の事項に問題がないことが確認されている場合は、当該事項の確認が完了</p>

しているとする可とする。

④【外観に基づく点検の実施】

- 外観に基づく安全点検（第1段階）が全て完了している場合 → プルダウンで「○」を選択する。
- 外観に基づく安全点検（第1段階）が一部でも完了していない場合 → プルダウンで「×」を選択する。

※ 1つの学校が複数のブロック塀等を有する場合、学校が有する全てのブロック塀等の点検が完了している場合のみを「○」とする。

※ 「×」を選択した場合⑥以降については記入不要。（セルが黒くなります）

⑤【点検結果】

【高さ・控え壁等の適合】

- 安全点検（第1段階）の事項 1)～4) について、全て安全性に問題がない場合 → プルダウンで「○」を選択する。
- 安全点検（第1段階）の事項 1)～4) について、一部でも安全性に問題がある場合 → プルダウンで「×」を選択する。

【うち、高さに関する適合】

- 安全点検（第1段階）の事項 1) について、全て安全性に問題がない場合 → プルダウンで「○」を選択する。
- 安全点検（第1段階）の事項 1) について、一部でも安全性に問題がある場合 → プルダウンで「×」を選択する。

【劣化・損傷】

- 安全点検（第1段階）の事項 5) について、全て安全性に問題がない場合 → プルダウンで「○」を選択する。
- 安全点検（第1段階）の事項 5) について、一部でも安全性に問題がある場合 → プルダウンで「×」を選択する。

⑥【安全性の有無】＜自動入力＞

- 安全点検（第1段階）の事項 1)～5) について、全て安全性に問題がない場合「○」、一部でも安全性に問題がある場合「×」が自動入力される。

※ 「○」が自動入力された場合、⑦・⑧については記入不要です。（セルが黒くなります）

● 第1段階（外観に基づく点検）点検を踏まえた安全対策（⑦・⑧）の共通事項

- 調査票提出時点の状況を記入する。

⑦【応急対策の実施】

- 安全性に問題があるブロック塀等の全てについて、「撤去」や「注意喚起」、「近寄れない措置」等の応急的な安全対策を実施している場合 → プルダウンで

「○」を選択する。

- 安全性に問題があるブロック塀等の全てについて、一部でも「撤去」や「注意喚起」、「近寄れない措置」等の応急的な安全対策を実施していない場合 → プルダウンで「×」を選択する。

⑧【安全上対策が必要なブロック塀等の全長・主な整備予定時期】

【安全上対策が必要なブロック塀等の全長】

- 安全上対策が必要なブロック塀等の長さの合計（m）を整数で記入する。

【主な整備予定時期】

- 主な整備予定が平成30年度の場合 → プルダウンで「H30中」を選択する。
- 主な整備予定が平成31年度以降の場合 → プルダウンで「H31以降」を選択する。

※ 既に撤去したブロック塀等について、今後、基準に適合したブロック塀等又は別種の囲障等を新たに設置する場合、安全上対策が必要なブロック塀等の全長の合計（m）に含めて計上する。

※ 1つの学校に複数の安全上対策が必要なブロック塀等が設置されていて、整備予定の時期が異なる場合は、整備予定の長さが長い方にまとめて計上する。

※ 安全上対策が必要な長さの全長が0の場合、【主な整備予定時期】については記入不要。

（安全上対策が必要なブロック塀等）

- ・ 現行の基準に適合していないブロック塀等
- ・ 亀裂等が生じているブロック塀等
- ・ 応急的な安全対策として撤去したが、防犯対策等の観点から塀の再設置が必要なブロック塀等

● 第2段階（ブロック内部の点検）安全点検（⑨～⑪）の共通事項

本調査では、平成20年3月10日国土交通省告示第282号に定められている調査項目のうち、ブロック内部の点検を「安全点検（第2段階）」とする。

安全点検（第2段階）は、設計図書等やブロックの一部取り外し等により、以下の事項について問題がないか確認する。

- 1) 鉄筋の接合方法、モルタルの充填状況は、令第62条の6に照らして適切か。
- 2) 鉄筋のピッチ及び定着状況は、令第62条の8に照らして適切か。
- 3) 基礎の根入れ深さは、令第61条又は令第62条の8に照らして適切か。

※ 構造計算により構造耐力上安全であることが特別に確かめられた補強コンクリートブロック造の塀であることが設計図書等により確認できる場合は、1)～3)の仕様基準によらない

ことができる。

- ※ 直近の建築基準法第 12 条の規定に基づく「塀」の点検において、1)～3)の事項に適合していることが確認されている場合は、当該事項の確認が完了しているとしても可とする。

⑨【ブロック塀等の内部点検の必要性】

- 安全点検（第 1 段階）では安全性に問題があるとされなかったブロック塀等のうち、今後も撤去等の予定が無いものを有する場合 → プルダウンで「○」を選択する。
- 安全点検（第 1 段階）では安全性に問題があるとされなかったブロック塀等を、今後全て撤去する場合 → プルダウンで「×」を選択する。

※ 「×」を選択した場合⑩・⑪については記入不要。（セルが黒くなります）

⑩【ブロック塀等の内部の点検の実施】

- ⑨の今後も撤去等の予定が無いブロック塀等について、全て安全点検（第 2 段階）が完了している場合 → プルダウンで「○」を選択する。
- ⑨の今後も撤去等の予定が無いブロック塀等について、一部でも安全点検（第 2 段階）が完了していない場合 → プルダウンで「×」を選択する。

※ 1つの学校が複数のブロック塀等を有する場合、学校が有する全てのブロック塀等の点検が完了している学校のみを計上する。

※ 「×」を選択した場合⑪については記入不要。（セルが黒くなります）

⑪【安全上対策が必要なブロック塀等の全長（主な整備予定時期）】

【安全上対策が必要なブロック塀等の全長】

- 安全点検（第 2 段階）を踏まえ、安全上対策が必要なブロック塀等の長さの合計（m）を整数で記入する。

【主な整備予定時期】

- 安全点検（第 2 段階）を踏まえ安全上対策が必要なブロック塀等で、主な整備予定が平成30年度の場合 → プルダウンで「H30中」を選択する。
- 安全点検（第 2 段階）を踏まえ安全上対策が必要なブロック塀等で、主な整備予定が平成31年度以降の場合 → プルダウンで「H31以降」を選択する。

※ 既に撤去したブロック塀等について、今後、基準に適合したブロック塀等又は別種の囲障等を新たに設置する場合、安全上対策が必要なブロック塀等の全長の合計（m）に含めて計上する。

※ 1つの学校に複数の安全上対策が必要なブロック塀等が設置されていて、整備予定の時期

が異なる場合は、整備予定の長さが長い方にまとめて計上する。

※ 安全上対策が必要な長さの全長が0の場合、【主な整備予定時期】については記入不要。

4. 留意事項

- ・ 点検に際しては、建築技術者等による確認の下で実施するようお願いします。特にブロック内部の点検については、建築技術者等が直接実施するようお願いします。
- ・ 点検にあたっては、「学校におけるブロック塀等の安全点検に係る特定行政庁の建築部局との連携について」（平成30年6月20日付け事務連絡）のとおり、必要に応じ特定行政庁の建築部局と連携し実施するようお願いします。
- ・ 調査結果については、都道府県等毎の状況を取りまとめて公表する予定です。各学校設置者においては、学校におけるブロック塀等の安全点検や安全対策等の実施状況に関する情報について、公表に努めるようお願いします。